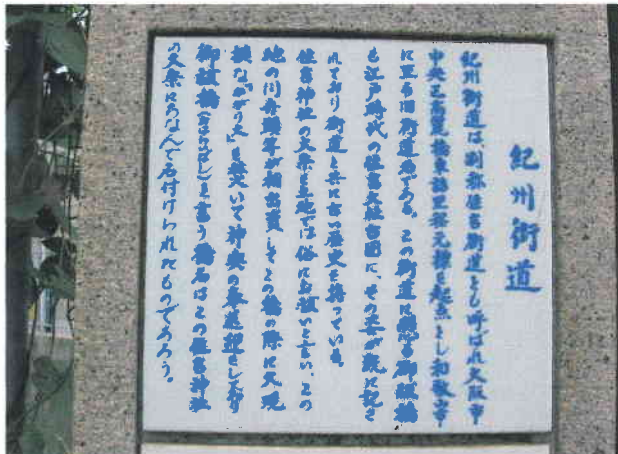


# I. 住吉大社周辺

## 1 旧紀州街道

- ▶ 紀州藩や岸和田藩が参勤交代のときに通った道で、それは大坂と和歌山を結ぶ街道でした。道としては鎌倉時代からあったそうですが、豊臣秀吉の頃、住吉大社へ参詣するための街道として整備され、その後、江戸期に入りさらに整備されました。



## 2 土佐藩住吉陣屋跡

大阪市住吉区東粉浜2

- ▶ 幕末、大坂の海岸警護のために土佐藩が幕命により築いた「土佐藩住吉陣屋」についてご紹介します。

司馬遼太郎著の「竜馬がゆく」(文春文庫第3巻 P34～)では次のとおり紹介されています。

「場所は、住吉村中在家にある。幕府からの拝領地に建てたもので、敷地は一万七十九坪七合五勺。海浜に面し、構えは、ほとんど城郭といいいい。土佐藩では、「住吉陣営」と通称していた。幕府が、外国陸戦隊の界上陸にそなえて建てさせたものである。故東洋(吉田東洋)が、幕府の機嫌をとるために、必要以上の経費を投じて造営した。武装も相当なもので、沿岸に砲台をつくり、陣中にはオランダから購入したゲベル銃五百挺を用意し、陣営の指揮官には家老級を置き、藩士五百人を収容している。」

### <完成までの経緯>

万延元年(1860)7月、大坂・兵庫・堺・和歌山などの海岸警護のため、幕府は次のとおり各藩に警衛を命じました。

○大和川流域: 柳川藩    ○大和川より尻無川: 土佐藩    ○尻無川より安治川: 鳥取藩  
○安治川以北: 岡山藩    ○兵庫: 長州藩

土佐藩は同年8月、幕府より住吉の地を譲渡され、翌年の文久元年(1861)5月に陣屋を完成させています。

この工事は、材料である木材、石、大工や人夫はすべて土佐から調達しています。

作時奉行に寺村左善、普請奉行に後藤象二郎があたり、当時の参政 吉田東洋も現場を視察するほどの力の入れようでした。

慶応元年(1865)には山内容堂も視察のために住吉陣屋を訪れています。



山内容堂



吉田東洋



後藤象二郎

### <陣屋の規模>

陣屋は約3.3ヘクタールもの広大な土地に、紀州街道（現在、阪堺電気軌道阪堺線が走っている道路）の東沿いに正門を設け、南北約360m、東西約140mの長方形になっていて、東側の上町台地西崖を除いた三方向に堀を巡らしていました。中は正門そばに陣屋本殿があり、その奥である東隣に武芸所の文武館がありました。そのほか、厩舎、火薬庫、射撃場、操練所があり、300名が常駐していたそうです。

### <陣屋に勤務した人物、訪れた人物>

最初の陣屋警備は、中老 山内左近が総指揮役、山田八右衛門が馬廻頭を務めています。そのほか、坂本龍馬ともゆかりのある 間崎哲馬（滄浪）、望月清平、清岡道之助、谷 干城などが陣屋に勤務していました。

訪れた人物としては、文久2年（1862）4月8日に吉村虎太郎が本間精一郎を連れて来ています。島津久光の上京により一気に倒幕へ向かわせようと、上士を説得させるためであったといえます。



谷 干城



吉村虎太郎

龍馬と共に勝 海舟門下にいた望月亀弥太も陣屋を訪れており、文久3年（1863）1月、母宛に次のような手紙を残しています。

「(最初省略)大坂八軒家につき申、御やしの近江宿をとり、夕方勝先生の御旅宿江参り候処、せんせいはいまだ用事これあるおもむきにてふなで延いん、同九日、本町三町目、せんせいの御りよ宿にとふりう、すみよし御ぢんやに行申候。」

### <陣屋跡の場所>

陣屋跡を示す石碑や案内板は無く、資料等によると住吉区東粉浜2丁目周辺が該当します。その場所には、東粉浜小学校（同2丁目3-26）や東粉浜幼稚園があります。



旧紀州街道から東側を見た住吉陣屋跡



旧紀州街道（阪堺電車が走る道路）



住吉陣屋跡地にある東粉浜小学校

- 1 阿倍野神社（北高田家）
- 2 帝塚山古墳（大伴金村）
- 3 東粉浜小学校（土佐陣屋跡）
- 4 住吉中学校（小帝塚山古墳跡）
- 5 開成地蔵
- 6 生根神社（奥天神）
- 7 一 運 寺（義士之墓）
- 8 大海神社（玉出島）
- 9 宝 泉 寺（十三佛）
- 10 松 林 寺
- 11 東 福 寺

### <陣屋跡のその後>

陣屋の跡地は茶畑になり、さらに草競馬場となったそうです。そして後に東粉浜小学校が建てられました。



### 3 六道の辻（閻魔地蔵堂）

大阪市住吉区東粉浜3-5-11

- ▶ 六道の辻には、6本ではなく7本の道が集まっています。元は6本だったそうです。その一角に「閻魔地蔵堂」があります。閻魔地蔵堂は、明治初年まで住吉大社の境内にあった「住吉神宮寺」という大きなお寺のお堂のひとつです。住吉神宮寺は明治の廃仏毀釈（はいぶつきしゃく）で無くなり、現在は住吉大社境内に碑が建てられています。閻魔がなぜ地蔵かといいますと、古くから閻魔は地蔵菩薩の化身といわれているからとのこと。

「六道の辻」は京都の松原にもあります。地名の由来は、その昔におびただしい人骨が出土したため髑髏原といわれていた時期があり、この髑髏、「どくろ」が転訛して「六道」になったのではないかとされています。



住吉大社境内にある住吉神宮寺跡の碑

### 4 弾薬製造所跡

大阪市住吉区帝塚山西4-15-12～14

- ▶ 土佐藩住吉陣屋には西洋の大砲があり、砲術の訓練が陣屋の敷地内で盛んに行われていたそうです。弾薬の製造は、砲術家田所荘之助が主となり、人を使ってこのあたりで製造を行っていました。郷土史家 村田 保氏によると弾薬製造所は「閻魔地蔵堂裏の東部の墓地付近」にあったとされ、現在のこの辺りに該当します。



弾薬製造所跡

### 5 生根神社

大阪市住吉区住吉2-3-15

- ▶ 境内に天神社も併祭しているので、一般に「奥の天神」といって親しまれています。住吉大社の摂社となっていました。明治維新後分離しました。豊臣時代には淀君の崇敬社にて、片桐勝元が現存の本殿を寄進されています。また、徳川時代においても、徳川綱吉将軍が修理を命じ奉幣しています。



## 6 土佐藩住吉陣屋遺構の石垣

大阪市住吉区住吉2-3-15

### ▶ <陣屋の遺構>

慶応2年(1866)土佐藩は京都の警衛を命じられたため住吉陣屋の警備を免じられ、陣屋は撤去されることになりました。

慶応3年(1867)7月、京都北郊外白川村にある土佐藩邸内に、中岡慎太郎を隊長とする陸援隊が新しく組織され、住吉陣屋の建物の主要部分が、この陸援隊本営に移築されています。

しかし、中岡慎太郎は、坂本龍馬と共に慶応3年11月15日、京都近江屋で暗殺されてしまい、陸援隊は翌年1月に解散となります。

その後、陸援隊本営は姿を消し、今は見るできません。

ただ、住吉陣屋の石垣に使われていた石が、住吉陣屋のあった場所からさほど遠くない、生根(いくね)神社に一部移築されています。

今でも住吉陣屋の遺構として見る事ができる唯一の場所です。

境内の北西に絵馬堂という建物があり、その西が崖になっています。

その崖の部分に使用されている石が、住吉陣屋の石垣として使用されたものです。



陸援隊長 中岡慎太郎



土佐藩住吉陣営に使用されていた石垣(生根神社)



石垣部分を拡大



生根神社鳥居



生根神社にある絵馬堂